北　国　の　住　宅

㈲アトリエaku代表取締役　鈴　木　敏　司

15年ほど前から木造の小住宅の設計をしていますが，７～８年はど前から木造住宅離れをしはじめ，コンクリート造やブロック造の住宅の設計が多くなってきました。理由としては，どうも暖かい住宅を造れないということ，そしてその住宅の耐久性に自信が持てない，ということでした。

木造の良さは自由な空間や形態を創り出しやすい，細やかな造作がしやすい，またコストの面でも有利である，などで，木造の魅力は捨てがたかったのですが，工法上どうしても気密性に問題がありました。

そのころ研究者を中心としたグループと，空間やデザインを主張するグループが北国の住宅のあり方を巡って相対立しているような状況だったと思います。それから，在来工法に改良を加え，容易に気密化を図れる方法が研究され，高気密で自由な空間が実現できるようになってきました。

「建築家の設計する住宅は本州的な創り方で，断熱などの配慮がたりない。」，「研究者の設計した住宅は魔法瓶のようで，その中での北国らしい豊かな暮し方をイメージできない。」こうした二つの考え方が，新しい工法の中で，融合できるようになったということです。

現在私たちは次のような考え方で設計をしています。

○まず住宅の基本的な性能（断熱，気密）を確保する。

○基本的な性能を確保することによって，空間を，性能の意味でコントロールすることができる。

○大きな空間や吹抜け，大きな開口部も可能になる。

○空間の形態やボリュームも自由に考えることが出来るようになる。

○新しい北国の住宅が創り出される。

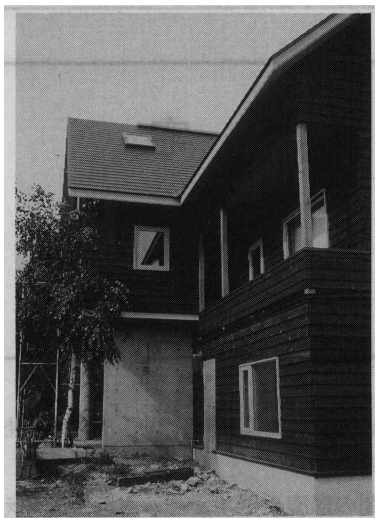
建物の外側をしっかり断熱・気密化すれば，自由な内部空間を創り出すことが可能になってきた，といえると思います。最近では自信を持って木造住宅を造れるようになったと考えています。

最近私たちの計画している住宅では，構成する要素の中に，「木」を使うケースが増えてきています。私たちが以前からこだわってきているもののひとつに「木製サッシュ」があります。工業的な既製品ではないので，形態的な自由度が高く，壁と壁にはさまれた窓とか，床から天井までの窓，三角や丸の窓にも対応できます。窓を設計することで，空間の魅力は増してきます。何よりも暖かい雰囲気があると思います。

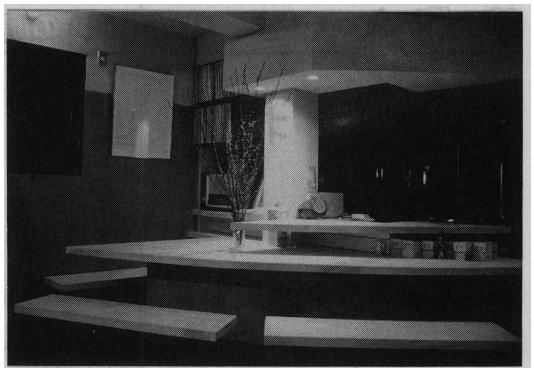
また，近年の衛生観からか，木質フローリングの床が建主側からの要望として増えています。裸足で快適に歩け，古くなってゆくにつれて良くなるこうした材料は大変貴重だと思っています。

住宅のインテリアに「木」が使われるケースが増えてきているように思います。

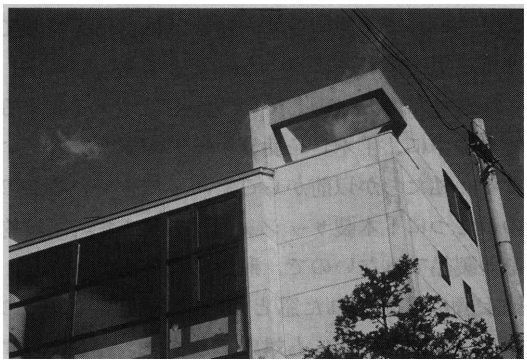
「木」は他の材料とも相性のよい材料だと考えています。コンクリートや鉄などの無機質な素材ともなじみやすく，コンクリート打ち放しの住宅などでも「木のサッシュ」と「木のフローリング」とのコーディネートでずいぶん暖かい空間とすることが出来ます。



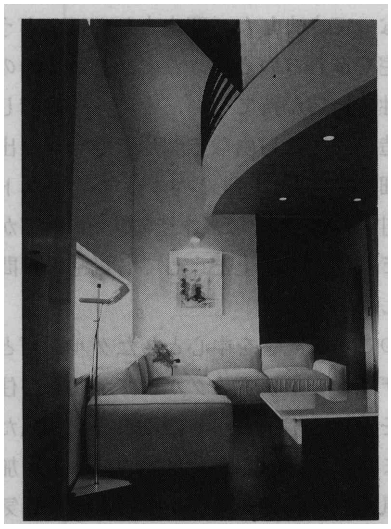
外壁板貼、木製サッシュ



無機的な壁と「木」



コンクリート造りの住宅と木製サッシュ



自由な空間、大きな吹抜け

「木」のあるインテリア

「木」とスチールの塀、木製サッシュ

1990年1月号

最近200戸ほどの摺地のプロジェクトで全戸に木の塀を採用しました。外部での「木」の使い方も植栽などとの組み合わせで魅力的なものになります。

これまでの住宅の傾向は，屋根が鉄板，壁がサイディング，窓はプラスティックサッシュ，内部ではビニールクロス張りの壁にカーペットの床，それに蛍光灯の照明というパターンが一般的だと思いますが，木の外壁や木のサッシュ，木の床，壁，天井，それに白熱灯の明りというエレメントが一部にでも入っていくと．空間や，家の印象，街並も豊かになっていくと思います．

一軒一軒の住宅が住手の個性に対応して多様になっていく時代になったのではないでしょうか。

「木」の自給率の高い北海道の住宅の中で，良い「木」の使い方をしていきたいものだと考えています。